

## 岡山県労働安全衛生センター 設立趣意書

私たちは、人間尊重を基本理念に、働く者の安全確保と健康の増進をめざし、長年それぞれの立場で努力してきました。しかし、今、働く者の職場には、多くの矛盾が発生し、かつ蓄積しています。労働災害、職業病は働く者のいのちと健康、くらしをおびやかしています。

毎年、全国で 100 万人もの働く者が、労働災害、職業病にかかり、1 年間に 4,000 人もの尊い生命が奪われ、その家族のくらしが破壊されています。岡山県内においてもこの 10 年間の年間平均では、休業 4 日以上の労働災害者は 3,723 人、この内 48 人が死亡しています。

「まことに人間の生命は地球より重い、『安全なくして労働なし』平和な生活と、生活と健康をおびやかす仕事と職場は排除され、労働者の安全は確保されなければならない」と、かつて日本労働安全センターは結成にあたり、高らかに宣言しました。

それからすでに、四半世紀が過ぎていきましたが、このことの必要性は、ますます強まっています。落下、墜落、爆発といった災害、腰痛、頸骨腕障害、振動病、じん肺、さらに指曲がり症等々の職業病の広がり、目を覆うものがあります。

急速な OA 化と加熱する職場ストレスは、世界に通用する「過労死」という言葉をも生みだしました。先端技術の職場で使われている、有害物質の種類は想像もつかない、多種多様なものとなっています。アスベストやフロン、農薬等による被害は、市民生活や地球環境にもおよんでいます。

「連合岡山」は 1990 年 1 月、産業構造の変化を含め、激変する社会に有効に対応し得る新しい労働運動を岡山の地において創りあげるため結成されました。結成されてからすでに 4 年が経過しましたが、その運動の基本は、「ゆとり、豊かさ、社会的公正」を実感できる世の中にすることにあります。

すなわち、働く者がみな平等に、人間として、人間らしい生活ができる環境を創りあげることです。その意味で、働く者全てが安心して働ける「安全で快適な」職場環境の改善とその確立に、より一層努力していかなければなりません。

そのため、私たちはまず、自らの安全と衛生に関する点検を強め、併せて、使用者には労働者保護法を常に正しく守らせ、もし不幸にして災害にあったときは、適切な処理と補償が全ての働く者に行われなくてはなりません。県内の組織労働者はもとより、未組織労働者を含めた広く県民のための労働安全衛生思想の徹底と普及、指導、相談および治療対策等が強くもとめられています。

「連合岡山」が結成されたその任務と役割を考えると、私たちは、まさに「岡山県労働安全衛生センター」の設立こそ、緊急かつ重要な課題だと確信しています。「人間の生命を地球より重いもの」たらしめる活動を強力推し進めるために、心ある全ての方のご理解とご協力、ご支援を心よりお願いいたします。